

第 15 回（1/21）最終回 労働観と働き方の多様化——ワークライフバランスをめぐって

1. 期末成績評価について（再掲）

シラバス

「平常点（受講取組みの積極性、課題提出）（60％）、期末レポート（40％）により評価します。」

↓

【出席】（配点 30％）

＊ 注意：出欠についての考え方 ×出席してれば単位くる…

【授業参加の積極性】（配点 30％）

BBS への投稿回数・内容、授業中の発言や質問、ディスカッションへの積極的参加、提出物の提出状況などにもとづいて、授業参加の積極度を総合的に評価します。

【期末レポート】（配点 40％）

期末レポート（講義内容に関連するテーマを、各自の関心に即して自由に設定してもらいます。分量 3,000 字以上）により評価します。

テーマ：「講義内容に関連するテーマを各自の関心に即して自由に設定し、それについて論じてください。」

たとえば、

- ＊ 講義内容や参考文献・資料、BBS での意見交換を通じて興味・関心をもったトピック、触発されたアイデア
- ＊ 10 月レポート「働くこと、会社、職場などに対するあなた自身の疑問」のバージョン・アップ版（自分が立てた問い・疑問に対するリサーチと考察・分析・解明）
- ＊ 講義で紹介した文献を 1 冊取り上げて読書レポート（内容要約 4 割 ＋ リサーチ・考察 6 割）

分量： 3,000 字以上（図表は 400 字にカウント、表紙不要、ステープルで留めること）

提出日： 定期試験日 2 月 4 日（火）14:40～15:40 10-21 教場にて提出

【評価基準】

授業内外で吸収した知識をもとに、自らの思考を駆使して社会科学的に考え抜いた痕跡がどれだけ反映されているかの点を評価基準とします（たんなる感想文や、文献・Web からの引用の継ぎはぎでは低い評価となります）。

× 「出しさえすれば単位はもらえる」

※ 事後提出は認めません（やむを得ない事情により試験日当日に出席できない場合は事前に連絡を！）

※ レポート提出がなされない限り、当該配点は 0 点となります

※ 学内内規により、総得点が 59 点以下の場合、成績は「不可」となります

2. BBS 投稿から

「…シュガー社員については共感できない部分もあったが、実際に働き始めたら自分が周囲にそう思われてしまうかもしれないという危機感も覚えた。」

「会議などの準備に必要なことが、思っていたよりも多く、エアコンを何分前からつけるのか、何枚分の資料と飲み物があるのか、などと機転を利かすのは大事なことで改めて思った。でもよく考えると友達を家に呼ぶ時も、普段エアコンもずっとつけてなくても何分前からつけて、、、、などと準備をする。仕事の雑務は普段の生活でしていることの応用でどのくらい機転を利かすのか、に関係していると思った。」

「仕事をする上で上司から何か言われてから行動するのではなく自ら様々なことに気を配り、考えて行動することの重要性を改めて感じた。またリアリティショックについては誰もが経験するという話を聞いて、自分自身が同じ状況になった際にはなんとか対応していけるようになりたいと思った。」

「決断力・判断力が仕事に大きく影響することを感じ、改めて決断力・判断力の大切さを感じた。それがあるだけで、仕事の進み方も変わってくるし、自分自身も仕事をしていて気持ち的にも楽だなと思った。リアリティショックは考えさせられた事が多かったが、色んな人がいて色んな事が成り立っているので、色んな引き出しを持って柔軟に行動したいと思った。後、嫌な人がいても執着しない、嫌な人の良い部分を伸ばしていけるような人になりたい。」

3. キャリア・ダイナミクス ——基本的発想（再掲）

「キャリア・ダイナミクス」：個人と組織の相互作用

- ・ 人びとの人間的欲求（成長・達成・私生活充実…）はキャリアの蓄積・維持を通じて満たされることが多い
- ・ 個人は組織と直接的な相互作用をもつ。組織も、その相互作用から影響を受け取る

「キャリア・アンカー」：（キャリア初期）

= 自己のキャリア形成の展望を方向付けるような自己理解・自己イメージ・自己定義付け

キャリア・アンカー 3つの成分

- ① 自覚された才能と能力（仕事環境での実際の成功にもとづく）
- ② 自覚された動機と欲求（現実の場面での自己診断、他者からのフィードバックにもとづく）
- ③ 自覚された態度と価値（仕事環境における規範との実際の衝突にもとづく）

4. 社会化段階（就職直後）のハードル（前回の続き）

「リアリティ・ショック」：

期待と現実（仕事・組織に所属すること、組織との最初の全面的な関わり合い）とのギャップ

→前回配布資料：「社会化段階の諸課題」（1961～63 年米スローン・スクール卒業生へのパネル調査）

課題 1： 人間組織の現実を受け入れる

- ・ 社内の他の人たち（性格、協働の事実）に対する幻滅感
- ・ 現実を受け入れ、人間関係に対して、技術的な問題、チャレンジングな課題として取り組むこと

課題 2： 変化への抵抗に対処する

- 人びとの、変化を嫌う性向の強さを体験
- 合理的でベストな解決策であつてもすんなりとは受け入れられない事実の発見
- 「変化への抵抗」にどう対処するかを学習課題と捉える
- アイデアや解決策を「売り込む」ことの必要性和、そのための工夫

課題 3： 仕事の仕方を学ぶ

- 自分自身の職務の分掌や手順の不明確さ
- 上司の反応の過少あるいは過剰
-
-

課題 4： 上司への対応と評価システムについての理解

-
-
-

課題 5： 準拠集団の見究めと自己アイデンティティの確立

- 自分に適した準拠集団はどこか
- 適切な仲間集団を決め、どの集団と「手を結ぶ」か（準拠集団）
-
-

5. 相互受容の達成

肯定的な業績評価

給料の増額

新しい職務の割り当て

昇進

組織の「秘密」の共有 cf. 4 種類の分類

加入の儀式

心理的契約

6. 「サラリーマン」というライフスタイル —— 「社内感覚」と市民生活

- 会社の外では対等な人間付き合いをする欧米サラリーマン
- 市民としての生活場面への「社内の対人感覚」の越境（売店・レストランでのふるまい、ボランティア組織、退職者コミュニティ、役職者と一般社員…）
- 「一般市民」という属性の希薄（ウチにくる人はみんな営業マン、どこそこの課長さん…）

7. 「会社人間」論

熊沢誠「会社人間の形成」（内橋ほか編 1994: 37-63）

【会社人間の特徴】

- ① 職業能力の展開が特定の企業にかぎられているサラリーマン
- ② 会社人間の労働条件は企業別に、企業内で、主として経営者の裁量のもとできまる
e.g. 賃金：企業の「支払能力」→ 勤続年数＋人事考課

「会社人間とは、この人事考課に具体化される＜日本の能力主義＞に、積極的または消極的に、あるいは＜強制された自発性＞をもって適応しようとする従業員にほかならない。」

- ③ 生活時間のなかに占める労働時間の比率が高い
- ④ 生活意識
 - ・ 会社での仕事、人間関係、昇進、収入が圧倒的関心事
 - ・ 広汎な企業の要請をなによりも優先させる

自らの価値観を全面的に企業目的に統合させること

自由な意志による行動が保障されるべき仕事外の生活をも、企業の要請に従わせる

「ノルマ未達成だから休暇は取れない」

「ウチは〇〇のビール、△△の電気製品、××の車。選挙のときはこの候補者」

「今日はウチの親は仕事だから（学校行事には）来ない」

「切実な家族の希望、地域生活のニーズ、市民としての義務感などは、折りにふれ彼の心中に葛藤をもたらすとはいえ、ついには、それらを『良き会社員』の倫理コードをもって押さえ込むところに、端的に会社人間の資格をみることができよう。」

8. 参考：マルクス疎外論

「疎外された労働」（『経済学・哲学草稿』）

① 労働生産物からの疎外

- ・ 労働の生産物が労働する者自身に属さない
- ・ 生産物は労働者と疎遠な関係におかれる
「労働者が富をより多く生産すればするほど、彼の所有できるものがそれだけますます少なくなる」字

② 労働行為の疎外

- ・ 労働者は資本家に雇われ、その支配下で働かざるを得ない
- ・ 労働が労働者にとって外的である（労働すること自体が、労働者とは疎遠な関係に）
- ・ 労働から解放されたときにはじめて自己を取り戻し、安らぎを感じる

③ 類的生活からの疎外

- ・ 労働し生産する人間は社会的結合、社会的共同のもとにおかれている、という意味で類的な存在たねばならない
- ・ 疎外された労働は、人間存在から類的生活という側面をひきはなす

↓

「人間からの人間の疎外」

- 人間が人間から疎外される
- よそよそしく対立しあう関係
 - 「ある人間が他の人間から、どの人間も人間的存在から疎外される」
 - 「主体の客体化の完成」

↓

「労働力の商品化」概念

「労働者の窮乏化の過程」

9. 現代の疎外

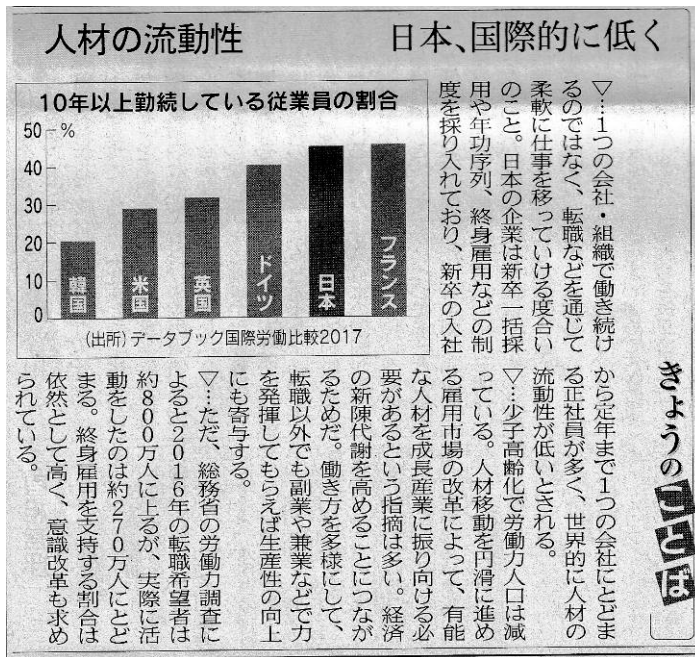
- クライアント（顧客）という絶対的存在
- 「生き馬の目を抜く」ような企業間競争
- 業績目標、営業ノルマのくびき
- 数値管理による業績主義
- 絶えず人事考課の視線にさらされる
- 労働密度、「忙しさ」の感覚 → 東京標準、日本標準
- 長期的キャリアを前提としたコスト・リターン
- 「モノ言わず」「波風立てぬ」のがよしとされる人間関係（ジェンダーバイアス、パワハラ…）
- 感情労働
- 「適応」と「尊厳」との間での葛藤
- 利害計算と理性・倫理との葛藤

10. 模索のトレンド

- 内部労働市場と外部労働市場との融解（転職市場の拡大）
- 「スーパー会社人間」と「冷めた社員」との二分化
- 内部告発の頻発
- 「スローライフ」の潮流（「世界市場」「市場のスピード」への相対視）

「忍耐をなくし、目先の時間に集中していく社会にあって、我々は長続きする自分の価値をどう見いだせばよいのだろうか。短期的なものにすべてを捧げる経済構造の中で、たえず分解され、頻繁に再構築される組織の中で、どうすれば人間相互の忠誠心や関わり合いを維持できるのだろうか。」（R.セネット）

- 家庭・家族への回帰
- 趣味・余暇生活、「第二の人生」「early retirement」への着目
- 努力主義への疑問



(日経 2017.12.28)

11. 自発的理由による早期退職の増加



「七五三現象」

理由：2つの見方からの仮説

① 本人希望と仕事とのミスマッチ（労働市場における需給構造）

e.g.

「不況期には、企業が新規卒者の求人を減少させるが、そのことは卒者にとって自分の希望通りの仕事を発見する可能性が低くなることを意味する。よって、たまたま不況期に学校を卒業した『世代』では、不満足な仕事に就く人が多くなる。そうすると、彼らは不満を抱えているがために、将来離職する可能性が高まり、離職率を引き上げる。」

(太田聡一、2001、「若者の失業は本当に『ぜいたく失業』か?」『日本労働研究雑誌』489号: 36-7)

② 意識変化

e.g. パラサイト・シングル仮説

12. 働くことの喜び・愉しみ

図表 I-1 サラリーマンの生活と生きがいに関する調査						
タイプ分類	生きがいの種類		男性	女性	男女計	合 計
仕事人間	仕 事		43・5	33・2	76・7	76・7
自己愛人間	知性派	趣味	47・4	50・7	98・1	140・4
		学習活動	6・2	5・3	11・5	
		内面の充実	12・5	18・3	30・8	
	肉体派	健康づくり	20・5	18・8	39・3	65・4
		スポーツ	17・0	9・1	26・1	
	自然派	自然とのふれあい	22・3	24・3	46・6	46・6
	孤独派	独りで気まま	7・5	14・2	21・7	21・7
家庭人間	家族・家庭		47・1	42・5	89・6	126・1
	配偶者・結婚生活		24・5	12・0	36・5	
社交人間	友人・知人との交流		13・8	33・4	47・2	60・7
	社会活動		10・1	3・4	13・5	

(シニアプラン開発機構、1997 年 12 月調査)

13. 前回までの課題

授業 HP の掲示板（BBS）への書き込み

- ・ あなたにとって、仕事の達成感・充実感、「やりがい」、働くことの楽しみとは何か
- ・ 期限： 1/20（月） 23:59

「バイトでしか味わった事はありませんが、私にとって仕事の達成感・充実感は、お客様の直接の声が聞けた時に達成感・充実感を感じる。ポジティブな声はもちろん、ネガティブな声も自分の足りない部分、勉強不足、学ばべきことが分かるので、そこにやりがいを感じる。そして自分が新たに勉強することが出来、努力出来、お客様に感謝し、新しい自分に生まれ変わり、自分の考えが広がり心も広がる。そして、自分が成長することが出来た時に働くことの楽しさを感じる。」

「バイトで接客業をしている為、お客様からの声がとても励みになっている。「ありがとう」というたった 5 文字の言葉であるがこの言葉をかけられることで私はモチベーションが上がりやりがいを感じる。」

「私はアルバイトで塾の事務をしており、私がしたことに対して塾生やその親御さん、あるいは社員の方々から感謝されるときにやりがいや達成感を得る。また、アルバイトとして様々な業務をこなし、自分がスキルアップしていることを認識できる場面に充実感を覚える。」

「アルバイトでの経験だが、理不尽なことを言われたり、やるせない気持ちになったりすることもある。しかし、お客さんの笑顔とありがとうという言葉だけで充実感が得られる。また、自分なりに工夫し、効率よくするにはどうしたらいいかを考えて行動するようになった。そうしてどんどん自分が成長していくことができるところに達成感ややりがいを感じる。」

「出来なかったことができるようになったり、自分が成長していると感じた時にやりがいを感じる。またちょっとしたお客様の笑顔や、ありがとうという言葉をもらった時に充実感を感じる。」

14. 引用・参考文献

E.H.シャイン、二村敏子ほか訳、1991、『キャリア・ダイナミクス』白桃書房

香山リカ、2004、『就職がこわい』講談社

玄田有史・曲沼美恵、2004、『ニート フリーターでもなく失業者でもなく』幻冬舎

玄田有史、2001、『仕事のなかの曖昧な不安』中央公論新社

大久保幸夫、2002、『新卒無、業。』東洋経済新報社

小杉礼子、2003、『フリーターという生き方』勁草書房

稲泉連、2000、『僕らが働く理由、働かない理由、働けない理由』文藝春秋

中島義道、2004、『働くことがイヤな人のための本』新潮文庫

K.マルクス、城塚登・田中吉六訳、1964、『経済学・哲学草稿』岩波文庫

パッペンハイム、栗田賢三訳、1960、『近代人の疎外』岩波書店

内橋克人・奥村宏・佐高信編、1994、『日本会社原論3 会社人間の終焉』

R.セネット、斎藤秀正訳、1999、『それでも新資本主義についていくか』ダイヤモンド社

田中夏子・杉村知美、2004、『スローな働き方と出会う』岩波書店

橋爪大三郎・金井壽宏、2001、『強いサラリーマン、へたばる企業』廣済堂出版

サラリーマン再生委員会編著、1999、『あなたは会社を棄てられるか』NHK 出版

村上龍、2003、『会社人間の死と再生』扶桑社

渋谷望、2003、『魂の労働 ——ネオリベリズムの権力論』青土社

杉村芳美、1997、『「良い仕事」の思想』中公新書

15. エピローグ

16. 授業評価アンケート

以 上

【授業 HP】 <http://t-enomoto.la.coocan.jp/komajo/>

【BBS】 <http://9113.teacup.com/tenomoto2/bbs>

働くことの喜び・愉しみ（過去の BBS 投稿から）

給与・報酬

「ありがとう」、感謝

「…「やりがい」を感じるのはお客さんからお礼などの言葉を聞いた時に感じてます。大変な事ばかりでも、やって良かったと思えるし、もっと良くしようと努力できて自分も成長するし、お客さんも快適に過ごせるので良いと思います。」

顧客の反応

「私は現在居酒屋でバイトをしているのですが、そんな私にとって仕事の達成感・充実感、「やりがい」、楽しみはやはりお客様とのコミュニケーションです。接客業はお客様とのコミュニケーションがとても重要になってくると思います。些細な事からお客様と仲良くなって話しかけてくれると私としてもすごく嬉しいし、バイトが楽しくなります。達成感は、すごく忙しくてあちこちから呼ばれたり、料理やドリンクを運んだりしてその時はとても大変で、お店がてんやわんやしてるのですが、そのピークが去った後に仕事をやり遂げた!!という達成感を感じます。」

「私が仕事の達成感・充実感を感じる時は、私の対応にお客様が喜んでくれた時です。あたりまえの意見に聞こえるかもしれませんが、私はアルバイトを通して初めて仕事をする事の大変さを実感しました。学生の私には普通の生活であり体験することのない『責任』について、仕事をしているとその重さに初めて気づかされます。喜んでもらえる時もあれば逆にクレームにつながる場合もある。そうなったとき、知らないではすまされない。状況を聞かれ、解決に加わらなければなりません。自分の発する言葉、起こす行動すべてに責任がある事を学びました。学生生活では、自分の失態で他人に迷惑をかけると言うよりかは、後に自分に返ってくる事の方が多いと思います。しかし仕事では、自分の失態で、お客様はもちろん内部の人間にまで迷惑をかける事につながります。でも、そうならないといけないと意識する事が、私の仕事のやりがいに繋がっているのだと思います。」

「私は接客業でカフェでアルバイトをしています。私が達成感や、やりがいを感じる時は注文を何にするか迷ってるお客様に飲み物、食べ物の説明やアドバイスをして喜んでもらった時に喜びと共に達成感を特に感じます。」

同僚からの信頼感・一体感・帰属意識

「私にとっての仕事のやりがいは仕事を大勢の人達と協力しながら一つの形として完成させる事で、仲間との達成感や喜びを共有する事です。大勢で仕事をするとはやはり一人一人意見の食い違いなどがでてくるので密なやり取り、意見のすり合わせなどは欠かせません。勿論そういった作業に煩わしさや苛立ちなどを感じることもあります。しかしそういった仲間同士の問題を解決し一つになる事こそが最大のやりがいであり、仕事を成功させるための欠かすことのできない大切な作業だと考えています。そういった問題を乗り越えて、大勢で仕事をなしたときの達成感はひとしおです。」

「…働く事の楽しみは同じ職場の人達みんな楽しく仕事できる時です。あとは、やはりお客さんと接する事の楽しさ。それが大きいです。接客業は、そういう面で凄く良いと思います。」

認められること

「私が働いていた時に感じていた仕事への達成感・充実感「やりがい」は、やはり働いた成果が自分に返ってくる事でした。あと短期の仕事だったため、仕事仲間の人たちとはどういう風にコミュニケーションをとっていけばいいのか、仕事をうまくこなすために早く慣れなければ、などそう言う事を気にしていたので、自分の働きが認められた時や一言声を掛けられたときなどは嬉しく思いました。そういう所が「やりがい」だったかもしれません。」

「わたしは接客業のアルバイトをしています。わたしが感じる「やりがい」とはアルバイト先でお客様に感謝されることとアルバイト先の先輩に褒められることです。事例をあげるとすると、この前、自分のやるべき仕事が終わったので飲み物の補充をしました。頼まれたことではなく自分が気づいて補充したので先輩に「成長したね」って褒められました。その時やりがいを感じました。」

業務をこなすこと、さばくこと

「私は接客のアルバイトをしています。私の達成感や充実感を感じられるときは長時間労働の日です。最高時間は13時間なのですが、接客の仕事なので笑顔や挨拶はとても大切になります。長時間労働をしていると呂律が回らなくなったり顔の筋肉に疲労が感じられます。それを乗り切った時は本当に達成感を感じます。どうってことのない当たり前の動作かもしれないですが、やはり10時間以上働くと疲労がピークになってくるので事務所に入った時の達成感が嬉しいです。自分がバイトを始めて何が成長したとかはよくわからないのですが、家族には「我慢強く」なったと言われました。毎日色々な方が来るので必ず一人は関わりたくない方がいます。その方とのやり取りで精神面が強くなったのかなと思いました。」

「私にとっての仕事の達成感は、物凄く大量のお客さんを相手に接客などをして終えた時にあります。混乱してしまうほど、やる事が多い時は特にです。」

「…仕事を効率よく早く行えたときに達成感を感じます。」

「私にとっての仕事の楽しみというのは、限られた時間の中で次々と入ってくる仕事をどうやったら効率良く正確に捌けるかを考えることです。また、他のアルバイトと一緒に連携の取れた作業が出来た時の達成感が「楽しい」に繋がっています。そうしたことを積み重ねて、社員の方からの信用を得て、更に違う業務も任されるとというのが私にとってやる気の源になります。」

「仕事の量が多い、内容が濃いほど達成感を感じる。極限まで続けることでやっと自分が仕事をしたのだと実感する。」

スキル習得、職業的学びと成長

「私が始めて決まった仕事は舞台の仕事でした。ちょうど3年前の8月で世間は夏休み。もちろん休みは全く、クーラーのない場所で毎日朝から夜まで稽古でした。プロとしてお客様からお金を貰うからには、新人という言葉は通用しません。仲間は友達ではなくライバルで、出来なければ舞台に立つ資格はない！と怒鳴られた事もありました。でも、少しずつ役を掴んでいくうちに楽しめるようになり、一つの事に向かって沢山の人が動いている事を知った時は頑張っているのは自分だけではないんだと気づき勇気にもなりました。無事に千秋楽を迎え沢山の観客の方から拍手をいただいた時は、諦めずに頑張ってよかった。。。と心からそう感じた瞬間でした。笑顔で帰ってもらう為に、本当に沢山の努力が必要だという事を感じた仕事でした。でも、そこを乗り越えたからこそ今の自分の自信にも繋がっています。辛ければ辛い程、達成した時の感動は素晴らしいものだし、この仕事が好きだと今は言えるようになりました。」

「私にとって仕事の達成感を感じる時は、それまで出来なかったことが出来た瞬間です。上手く出来なくて落ち込んだり自己嫌悪に陥ったりしていたことが、ある時出来るようになった瞬間に達成感や充実感、さらに向上心のような物が芽生えます。つまり、成長を感じる時が、達成感や充実感を感じる時だと思います。また、接客のアルバイトをしていた時は、お客様に感謝された時、そして自分も感謝したいと思えた時は本当に充実感でいっぱいでした。自信がない中で自分のやったことが認められた時や、良い結果に繋がった時は純粋に嬉しいので、そういうことに充実感を持ちます。」

「私はアイリッシュパブで働いています。外国人のお客様が多いので、英会話のできない私にとっては接客が必死です。空いている時はジェスチャーや何度か聞き直すのでもいいのですが、混んでくると、騒がしさと早口な英語でオーダーを聞き取るだけで大変です。でもスムーズなオーダーを取れたとき非常に達成感を感じます。繰り返し聞くことで、本当に耳が慣れるだと実感しました。働き始めた頃は、「ジャスト ア モーメント」の一言で別のスタッフに頼んでいたのが、成長したと思います。外国人の中には、旅行者も多いのでままたまならない英語で

も旅行者の記憶に残るような良い思い出になればと接客することで自分自身の楽しみにもなりますし、仕事のやりがいを感じます。サービス業である限り、様々な出会いを大切に、人の心や記憶に残ることが働くことの楽しみであると感じています。」

「私の仕事の達成感・充実感は、続けているうちに自分の中でプラスになることが身に付くことです。人通りの多い駅構内でお弁当販売の売店でアルバイトをしています働き始めて今年で3年目になります。朝から入れば満員電車で揉まれて不機嫌なお客様に文句など言われるのは普通ですし何より人が沢山来ます。朝シフトに入れるのは私を入れて3~4人で、毎月どうにか少ない人数で過度の連続勤務にならぬよう回さなきゃなりません。時には私一人で多人数のお客様相手にレジ対応をするときもあるちょっと大変なアルバイトです。何故自分がその仕事を続けられたのか。それはアルバイトをしてから私自身変わったということです。接客をしていれば嫌なお客様に相手しなければなりません、それを経て日常では些細なことにはイライラしなくなったり、バイトを始めた時よりも今は表情が明るくなったと家族に言われるようになりました。それと物事を片付ける時にどこをどうすれば一番効率のか考え、てきぱきと動くようにもなりました。アルバイトとはいえ、買ってくれるお客様のために商品を提供・販売する仕事は、自分の成長にも繋がるんだと思います。社会勉強の為にアルバイト！と思い始めた仕事は大変だけどプラスになることが身に付くんじゃないでしょうか。」

「私にとって働くことの楽しみとは、自分の成長や自分が育成した後輩の成長を感じられたときです。それがやりがいへと繋がると思いました。働くことは周りの人との調和をとりながら、客観的に考えることが大切だと考えました。」

関心のあること、自分のやりたいこと

「現在、私はカメラアシスタントのアルバイトをしています。以前までの仕事と同じように仕事が出来れば出来るだけ重要な仕事を任せられスキルアップしていく自分に充実感や達成感を感じることが出来ます。しかし今までの仕事と違うところは、自分のやりたかった仕事出来る環境が純粹に「楽しいと思える仕事」であるように思います。正直なところ、接客業の頃は時給がなかなか良かったのですが今の仕事は体力的に言えば相当厳しいですし、金銭的に言えば最低レベルです。仕事によっては朝から晩まで働き詰めなんてこともしょっちゅうです。小さなミスも許されません。なぜならそれが会社の大損害に繋がるからです。そこでアルバイトであっても会社の一員であり責任があるのだと感じました。今はアルバイトですが、普通のアルバイトでは経験できないような仕事ばかりで「社会に出て働く」ことの大変さを感じつつあります。それでも、私がこの仕事を続けてられるのは「楽しい仕事」であると共にやればやるだけ自分の力になり、評価に繋がり自信になり、私たちが産み出したものを見て何かを感じてくれる人が居るからこそその不特定多数の人の為に自分に出来ることを最大限出そう、と思えるからです。今のアルバイトを始めてから、家族に「バイトに行きたくないって言わなくなったね」とよく言われます。私はこれからも今の職場で楽しく働いていきたいです。」

以 上

課題3：仕事の仕方を学ぶ

- 自分自身の職務の分掌や手順の不明確さ
- 上司の反応の過少あるいは過剰
- 曖昧さとの共存を学ぶこと
- 「かまわれない」状況下で自分自身を客観的自律的にコントロールすること

課題4：

上司への対応と評価システムについての理解

- どのようにして上司とうまくやっていくか
- 依存と独立のあいだの欲求コンフリクトに処する
- 評価システム（期待される役割、評価の対象と基準）の実情を理解する

課題5： 準拠集団の見究めと自己 IDENTITY の確立

- 自分に適した準拠集団はどこか。だれに忠節や忠誠を表さなければならないか。
- 適切な仲間集団を決め、どの集団と「手を結ぶ」か（準拠集団）
- 地位体系の解読・理解
- 自分自身のキャリア・アイデンティティの確立